

令和6年度教育研究活動報告書

氏名	灰谷 謙二	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	修士（文学）	職位	教授
専門分野			

I 教育活動			
本年度担当科目			
	授業科目		
学部	日本語学概論、日本語学講義Ⅱ、日本語学講義Ⅳ、現代語学専門演習a、現代語学専門演習b 卒業論文（構想・準備）、文章表現法入門、文章表現法入門（学術的文章）、尾道学入門		
大学院	日本語学特講、日本語学演習、日本音律特論、日本文学・言語文化総論、研究指導（論文指導）		
II 研究活動			
現在の研究テーマ（3つまで）			
（1）『瀬戸内海言語図巻』の追跡調査による音声言語地図の作成と言語変容の研究 基盤研究B 研究代表者 友定賢治 研究分担者 2017~2021 2021-2025			
（2）岡山・福山地区の社会言語学的調査研究			
（3）現代社会における性向語彙の質的变化と機能			
本年度を含む過去3年間の研究業績 R6・R5・R4			
R4 〈論文〉 日本文学科 高大連携国語教育オンライン研究会報告—リメディアル教育と入学者選抜試験の分析から— 2023年3月 藤本真理子・吉田幸・灰谷謙二・信木伸一・吉田幸・藤川功和 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第22号			
R3以前の主な研究業績			
（1）〈論文〉 「「田畑からの帰り道でのあいさつ」にみられる表現発想と都市化」 『柳田方言学の現代的意義 あいさつ表現と方言形成論』ひつじ書房（H26/7）			
（2）〈論文〉 小津安二郎『東京物語』における尾道方言使用の意味 『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第12号 2013			
（3）〈論文〉 海上ネットワークにおける言語伝播—半陸半海の環境がもたらす伝播のメカニズム— 『方言の研究4』特集方言研究のネットワーク 日本方言研究会2018.9			
（4）〈著書〉 『これが広島弁じゃ！』2016.12洋泉社（監修）			
学会、所属団体における活動（本年度を含む過去3年間の研究業績） R4・R5・R6			
所属学会・所属団体 役職等と任期			
日本語学会・日本方言研究会・日本音声学会・広島大学国語国文学会			
IV 社会活動			
1. 学外活動（本年度1年間の活動状況）			
（公開講座・後援会・出前授業に関するもの、その他特記事項があれば記入） テレビ新広島「びたにゅー」での方言境界線探索企画に企画相談から解説（放送2回）までを担当。			
2. 委員会及び協議会委員（本年度1年間の活動状況）			
	委員会等の名称	委員長・委員等の別	出席回数（回）
（1）尾道市関係	尾道市立図書館運営協議会	委員長	2回
	尾道市社会教育委員会	委員	0回
	委員会等の名称	委員長・委員等の別	出席回数（回）
（2）尾道市以外	社会福祉法人りじょう福祉会評議委員会	委員	1回